

赤星 たみこ

Written by Tamiko Akabosi

オシャレでセレブなエコライフ

みなさま、ごきげんよう。私が、エコにゴージャスという概念を持ち込んだ初めての人、赤星です！

日本中のほとんどの人が、「エコ？ やんなきゃいけないけど面倒くさいよね」とか、「エコロジィって手間ひまかけてごみ減らしたり、我慢したりして省エネすることでしょ？」と思っています。

ノンノ〜ン！ そんな考えは前世紀の遺物ですよ！ エコとは、オシャレでセレブな人がやる、優雅な趣味ですわ。

なんて、ちよつと気負ってみました、私、本当にエコ

はオシャレでセレブな人のためのものだと思っています。

例えば、私のお城（という名の民家ですけど）では、ごみを減らすためのさまざまな工夫がしてあります。

例えば、バーベキューをやるときは、使い捨て容器は使いません。紙皿や紙コップはとても便利ですが、でもごみが大量に出ます。普通のグラスやお皿を使った方が、ごみが出ないんですね。

そう言うって、使い捨てだと洗う手間が省けて便利じゃん？ エコの人は手間ひまかけて偉いわねえ」と

言われることもあります。そんなとき、私は、エコのために我慢して紙皿を使わないわけじゃないわよ。オシヤレのためにやっているのよ」と答えるんです。

だってね、もしエリザベス女王のパーティなら、紙コップで飲み物を出しますか？ 紙皿でお料理を出しますか？ やっぱりクリスタルのグラスや陶器のカップで飲み物を出しするでしょ？ 私は王族クラスのゴージャスを目指しているんですッ！！

プラスチックのお椀をやめて、漆器のお椀にしたのも、やはりオシャレでゴージャスが好きだから。

一見、漆塗りみたいなプラスチックのお椀も家にありましたが、買ってすぐはいいんだけど、何年かたつとみすばらしくなります。二十年以上使ったみすばらしいお椀を捨てたとき、これは燃えるごみ？ 燃えないごみ？ と考えるのが面倒だったし、長年使ったものを捨てるのに胸も痛みました。

ところが漆器のお椀は、百年以上もつんですよ。もし漆がはげても修理や塗りなおしできます。確かに高かったけど、長くもつことを考えると決して高いものとは思えなかつたんです。

そして、漆器を使うことに関して、私はもうひとつ「これぞ本当のゴージャスだ！」と思うことがあります。

それは、漆器の価格ではなく、漆器を扱う所作のことです。

漆器は手荒に扱つと傷がつきやすく、扱いに気を遣います。だからそれが面倒くさくて漆器をしまいこんでいる家庭も多いのです。でも、そういう繊細な器を、

傷がつかないように優しく扱える手の動き、これこそ本当のゴージャス・華麗さだと思っております。

日常の所作が優雅であること。私のエコは、それが最大の目的です

(常日頃ががさつなんで...)

外で手を洗うとき、ハンカチで手を拭くのも、その方が優雅だと思えます。何でもか

んでも紙タオルよりきれいなハンカチを持ち歩く習慣の方が、優雅だと思つてですね。

結果として紙タオルのゴミが減るのはうれしいおまけです。

お客様にお茶を出すとき、

ペットボトルから注ぐより、ガラスの水差しに冷茶を作つて出した方がオシャレで、しかも美味しいものができます。作り方はイラストを参照してください。持ち歩



くときはもちろんペットボトルでもいいですが、家で飲むときはガラスの水差しに作ります。その方が優雅でしょう？

環境のために無理して我慢するほど環境好きな私じゃありません。優雅でゴージャスな生活をしていると、おまけとして環境によかつたというのが私の理想なんです(でも、本当に優雅な生活をしている人はこんなことを考えないのかもしれないですね。普段ががさつで下品だからこそ、理想として「優雅」を求めらるんじゃないの？ という心の声は無視しつつ、ゴージャスなエコを目指す赤星でした！)。

CEL

赤星 たみこ(あかぼし・たみこ)

1957年宮崎県生まれ。79年に講談社「mimi」で漫画家としてデビュー。以後、少女誌、青年誌、レディス誌、総合誌などで、あらゆるタイプのマンガを描き続け、幅広い支持を集めている。近年は、「健康」「エコロジー」「料理」についてのエッセイや漫画も多い。著書は、『わたしは趣味のエコロジスト』(共著、メディアファクトリー)、『エコロなココロ:地球と「私」にやさしい家事改革のススメ』、『ゴミを出さない暮らしのコツ:キラクで身近なエコロジー入門』(共に大和書店)など。